



<<<<< 目 次 >>>>>

学会からのTOPICS

低線量CT肺がん検診の有効性を評価する日立市コホート研究	1
第27回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって	2
第27回日本がん検診・診断学会総会のご案内	
開催概要	3
発表演題登録	3
2019年度(第14回)がん検診認定医講習及び試験について	4

関連学術集会等のお知らせ

第28回 日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会のご案内	4
第29回 日本乳癌検診学会学術総会のご案内	4
日本CT検診学会 2019年夏期セミナーのご案内	5

学会からのTOPICS

低線量CT肺がん検診の有効性を評価する日立市コホート研究

名和 健(株式会社日立製作所日立総合病院 呼吸器内科)

茨城県日立市では平成10年4月から日立健康管理センタ(職域)、平成13年4月から日立市(地域)、同12月から日立総合健診センタ(人間ドック)で50歳以上の男女を対象として低線量CTを用いた肺がん検診(CT検診)が導入された。我々は発見された肺がんの5年生存率は90%ときわめて良好なこと、また時系列研究により検診導入後4~8年経過してから市民全体の肺がん死亡は全国統計と比べ24%減少したことを報告した。これらの結果を受けてCT検診を受けた市民の肺がん罹患、死亡を追跡するコホート研究が実施され、このたびJapanese Journal of Clinical Oncology誌から出版された(文献)。

研究の概要を述べる。2006年までに職域、地域、人間ドックのいずれかでCT検診を1回以上受診した17,935名(CT群)、同じ期間に従来の胸部X線検診を受けたが(観察期間を通じて)CT検診は一度も受けていない市民15,548名(X線群)を対象として、2012年までの肺がん罹患と死亡、および全死因死亡を追跡した。

平均9年以上の経過観察によりCT群から273例(1.5%)の肺がんが診断され、72例(0.4%)が肺がんのため死亡した。すべての死因による死亡(全死因死亡)は885例(4.9%)であった。X線群から164例(1.1%)の肺がんが診断され、80例(0.5%)が肺がんのため死亡し、全死因死亡は1,118例(7.6%)であった。最初の検診を受けた時点を起点として観察年数と累積肺がん罹患、肺がん死亡をプロットすると、CT群の肺がん罹患は最初の2年間で大幅に増加し、CT検診による高い検出能力が示された。一方、肺がん死亡は最初の2年間では両群の差はなく、3~4年後からCT群の肺がん死亡が低減し以降は大幅に減少した。Cox比例ハザードモデルにより性、年齢、喫煙歴を補正すると、CT群はX線群と比べ肺がん罹患は23%多いものの、肺がん死亡は51%減少した。なお、CT群は全死因死亡も43%減少していた。いわゆる選択バイアスの存在は否定できないが、CT群は重喫煙者が多いこと、また累積肺がん罹患と死亡の推移からもCT検診の有効性が示唆された。さらにサブグループ解

析の結果、非喫煙者または軽喫煙者(1日20本、30年未満)におけるCT群の肺がん死亡リスクはそれぞれ59%、79%減少した。

研究デザイン(観察研究)の限界はあるものの、非喫煙者を含む地域住民に対するCT検診が肺がん死亡を大幅に減らしうることを初めて報告できた。今後は症例対照研究を追加して適切な検診対象や検査の間隔について検討したい。本研究は日立市を実施主体として国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)革新的がん医療実用化研究事業「低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為比較試験」(班長 佐川元保先生)の援助を得て行われた。ご協力いただいた皆様、また本メールマガジンへ執筆の機会を頂いたことに感謝します。

文 献

Nawa T, Fukui K, Nakayama T, Sagawa M, Nakagawa T, Ichimura H, Mizoue T. A population-based cohort study to evaluate the effectiveness of lung cancer screening using low-dose CT in Hitachi city, Japan. Jpn J Clin Oncol. 2019 Feb 1; 49(2): 130-136. (オープンアクセスです)

第27回日本がん検診・診断学会総会の開催にあたって

会長 山田耕三(神奈川県立がんセンター呼吸器内科部長)



第27回日本がん検診・診断学会総会会長を拝命致しました神奈川県立がんセンターの山田と申します。この学会は四半世紀を経過し、いろいろな臓器のがん検診についてその有用性や今後の課題についての情報の共有を進めてまいりました。今回この学会を開催させていただくことをたいへん光栄に存じます。会期は、2019年8月31日(土)、9月1日(日)の2日間であり、歴史とロマンのある横浜において開催します。

私は呼吸器内科医であり、この25年地元の先生方と肺がん検診の実践と普及を進めてまいりました。日本は今後2人に1人が「がん」になる時代だと言われています。肺がんのみならず幅広い領域において、がんを早期発見し治療すること、また高齢者にも優しい低侵襲手術や副作用の少ない局所放射線治療、有効性の高い免疫治療を取り入れた薬物治療に対する要望や期待も高くなっています。一方、がん検診においても、次々と新しいモダリティ技術やゲノム診断に関するトピックスが報告されました。特に、がん患者の遺伝情報を調べて最適な治療法を選択する「がんゲノム医療」について、厚生労働省は患者への説明や治療を行う「がんゲノム医療連携病院」に全国の100病院を指定しました。これでがんゲノム医療の診療体制が日本においても整ったことになり、個々の患者に応じた治療方針を決める「がんの個別医療」が国内で本格始動することになりました。

一方、がん検診の精度管理や過剰診断・過剰治療の課題についても数多くの議論もなされてきています。我々は個別化検診に向けたこれまで以上に質の高い検診を行うとともに、科学的根拠に基づいたがん検診を提供し、また新しい診断技術の開発や、癌の存在診断における「ゲノム診断と画像診断の融合」についての正しい情報を提供し、より多くの方が適切かつ有効ながん検診を受けられるよう推進するための討論ができる有意義な学術集会にしたいと思います。今回の総会のテーマを「癌の存在診断におけるリキッド診断と画像診断の融合」とさせていただき、例年通り特別講演、教育講演、シンポジウム等も含めて「ゲノム診断」と従来の画像による「がん検診」との融合を討議するようにしました。一般演題を募集し、数多くの会員の皆様が演題を発表していただけるようにいたします。より社会に貢献できるがん検診の近未来像について討議しましょう。

今年は梅雨明けが早く、天候不順+暑さが厳しい季節になりそうですが、どうか一人でも多くの方が積極的にご参集されますよう、心よりお願い申し上げます。

第27回日本がん検診・診断学会総会のご案内

■ 開催概要

テーマ：癌の存在診断におけるリキッド診断と画像診断の融合

会期：2019年8月31日(土)・9月1日(日)

会場：新横浜プリンスホテル(神奈川県横浜市港北区新横浜3-4)

会長：山田 耕三(神奈川県立がんセンター医療技術部兼呼吸器内科部長)

プログラム：

特別講演(2019年9月1日 14:30～15:30)

「肝臓がんと超音波診断」

小川 真広(日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科)

基調講演(2019年8月31日 16:45～17:30)

森山 光彦(日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野)

教育講演(2019年9月1日 13:30～14:20)

「日本の画像によるがん検診が向かうところ」

斎田 幸久(東京医科歯科大学)

シンポジウム1(2019年8月31日 9:00～11:40)

「高齢化社会におけるがん検診の型」

シンポジウム2(2019年9月1日 8:50～11:30)

「リキッド診断の展望」

パネルディスカッション1(2019年8月31日 14:00～15:30)

「がん検診における情報伝達の不備、見落とし、その対策」

パネルディスカッション2(2019年9月1日 9:00～11:30)

「がん検診と推奨年齢-高齢者はいつまで受けるのか?」 ほか

詳細が決まり次第、ホームページ(<http://www.jacdd.org/soukai27/>)にて公開いたします。

■ 発表演題登録

募集期間

2019年4月17日(水)から6月3日(月)・6月17日(月)まで

※演題登録の募集期間を6月17日(月)まで延長致しました。

募集演題

口演発表のみの募集になります。

文字制限：

- ・演題名：全角60字以内(スペースを含む)
- ・抄録本文：全角1,000文字以内(スペースを含む)

演題テーマ

- 1)学会テーマ「癌の存在診断におけるリキッド診断と画像診断の融合」に関連する演題
 - 2)各領域(肺、乳、消化器、婦人科、腎・泌尿器、小児、放射線機器)のがん検診に関する演題
 - 3)検診の精度管理・過剰診断などの課題に関する演題
- 等、幅広く演題募集します。



応募資格

筆頭演者および発表者は本学会員に限ります(発表時に会員であれば問題ありません)。

入会を希望される方は、学会事務局ホームページよりお手続きください。

採否通知について

ご応募いただいた演題の採択は、会長にご一任ください。

採否通知：6月下旬～7月上旬

発表形式

口演発表は、原則としてPCによるパワーポイントを使った発表のみとなります。

講演中は、演者ご自身で演台上的の機器を操作していただきます。

一般口演時間は、発表時間が8分、質疑応答が4分の合計12分となります。

演題登録フォーム

上記項目をご確認いただけましたら、筆頭演者の方は、演題募集期間中に、ホームページ「演題登録画面へ」から、登録をお願い申し上げます。

<https://www.jacdd.org/soukai27>

2019年度(第14回)がん検診認定医講習及び試験について

日 時：2019年8月31日(土) 9:00～15:30

会 場：新横浜プリンスホテル(〒222-8533 神奈川県横浜市港北区新横浜3-4)

受講・受験申込期日：2019年5月16日(木)～8月23日(金)

受講料：受験・受講の場合 10,000円／受講のみの場合 5,000円

※がん検診認定医講習及び試験は、がん検診・診断学会総会の一部として行うこととなっておりますので、総会の参加費もお支払いいただきます。

関連学術集会等のお知らせ

第28回 日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会のご案内

テーマ：がん検診と個別化医療

会 長：小林 浩(奈良県立医科大学 産婦人科学教室 教授)

会 期：2019年9月28日(土)～29日(日)

会 場：奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～

〒630-8212 奈良県奈良市春日野101

TEL 0742-27-2630

<http://www.i-ra-ka.jp>

第29回 日本乳癌検診学会学術総会のご案内

会 長：笠原善郎(福井県済生会病院)

会 期：2019年11月8日(金)・9日(土)

会 場：福井商工会議所、AOSSA

総会幹事：田中 文恵(福井赤十字病院)

大田 浩司(福井県立病院)

ホームページ：<https://www.med-gakkai.org/jabcs2019/>

日本CT検診学会 2019年夏期セミナーのご案内

日時：2019年7月13日(土) 9:25～16:30

会場：一橋大学 一橋講堂 中会議場

〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター 2階

代表世話人：中島 留美(日赤熊本健康管理センター)

ホームページ：https://www.jscts.org/index.php?page=seminar_index

編集後記

2019年5月から令和となりました。令和になって初めてのメールマガジンを発行いたします。本学会は、がんの検診・診断に関わる7つの団体が、各種がん検診に共通した諸問題について協議し、日本におけるがん検診の発展に寄与することがその趣旨にあります。課題であるがん診断学、検診方法、精度管理、評価など、時代の流れと共に新たな対応策が必要になり、変わらぬテーマも継続しています。新たな時代を迎え、会員・学会のさらなる発展を祈念します。

さて、本メールマガジンでは、学会からのTOPICSとしては「低線量CT肺がん検診の有効性を評価する日立市コホート研究」と「第27回日本がん検診・診断学会総会の開催のご案内」、「2019年度がん検診認定医講習及び試験について」があります。

名和健先生には、低線量CT肺がん検診の有効性を評価した研究の概要を紹介いただきました。成果とご努力に敬意を表します。皆様にもぜひお読みいただきたく思います。

「第27回日本がん検診・診断学会総会の開催のご案内」では、会長の山田耕三先生(神奈川県立がんセンター)のご挨拶、開催案内を掲載しました。会員の皆様も演題発表や聴講など是非ともご参加をお願いいたします。また、がん検診認定医講習及び試験や関連学術集会のご案内も参考にいただければ幸いです。

最後になりましたが、会員の皆様方の益々のご健勝を祈念いたします。

副理事長 吉原正治(広島大学保健管理センター)

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会メールマガジン

2019年6月12日発行 Vol. 7 No. 1

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 6F (株)クバプロ内

特定非営利活動法人日本がん検診・診断学会

編集発行：株式会社クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：npojimu@jacdd.org URL：http://npo.jacdd.org/